

鶴友クラブでよく聞かれるQ&A

Q：将来、高校で硬式野球を続けるに為には、中学野球の軟式出身者は硬式出身者に比べて不利になるのではないのでしょうか？

A：確かに高校入学当初は、ボールの特性の違いに戸惑いがあるのも事実です。でも、ボールの違いによるもの以上に、高校生との体力差による打球の速さ、投球の力強さに圧倒されていることの方が大きいようです。軟式にも硬式にもそれぞれ一長一短あると思います。ただ鶴友では、中学野球が頂点ではなく単なる通過点と捉えています。やる以上勝ちにはこだわりますが、勝つ為だけに軟式野球特有の打撃方法論や戦法論などで、軟式野球を極めるための指導は行っていません。高校生になってギャップを感じさせないような指導に心掛けています。余談ですが元MLBのイチロー氏、松井秀喜氏など、中学軟式野球出身者にもすばらしい選手はたくさんいます。京都府内の甲子園常連の強豪校でも多くの軟式出身者が活躍しています。

Q：中学校の部活の野球部との両立はできますか？

A：中学校体育連盟野球競技部会と舞鶴野球連盟との取り決め事項として、原則、土曜日は部活優先、日曜日はクラブチーム優先となっています。しかしながら鶴友クラブでは、他府県のクラブチームとの交流も盛んに行っていますので、土曜日にも試合が組まれます。部活に入っても不利な扱いになることはございませんが、平日の夜間自主練習等も行っていますので、クラブチーム一本で取り組んでいただいた方が望ましいです。

Q：中学野球の公式戦は遠征が多いと聞きましたが、私どもは土曜日・日曜日が仕事の為、配車当番が困難です。他の負担をすることで配車当番の免除や軽減はされますか？

A：鶴友では小型バス(定員29名)を所有しています。選手の遠征試合の移動手段は小型バスで行いますので、父母会による配車当番はございません。

Q：クラブ活動での保護者当番はどれくらいの頻度で、どのようなことをしなければなりませんか？

A：もともと練習にも試合にも保護者当番などは求めていませんでした。最近では学童野球の流れから父母会で自主的にお茶当番などをしてもらっていましたが、廃止していただくことにしました。当然、指導者に対するお茶やコーヒーなどの提供もお断りさせていただきます。保護者の負担を軽減していただくのはもちろんですが、現在は選手たちに「自分たちで出来ることは自分たちでやる」という自立心を養う指導の一貫として行っています。

Q：私はまったく野球経験がないのですが、中学生レベルの審判などはとてもついていく自信がありません。ミスジャッジなどで迷惑をかけてしまいそうで不安です。大丈夫でしょうか？

A：鶴友クラブでは以前から、公式戦の審判割当は指導者が当たることを基本としています。交流戦や練習試合においては、選手の育成・指導を目的に選手が交代で塁審を務めます。

Q：中学生になると中間考査、期末考査などがありますが、その期間中のクラブ活動はどのようにされていますか？

A：考査期間が各中学校によって違いますので、テスト前学習としての一斉休日はございません。しかし、各中学校のテスト期間に応じて選手ごとに学習休日を設けています。日曜日に公式戦が組まれる場合もありますので、その場合、土曜日の午前中に軽めの練習をすることはあります。それは体を動かす事だけが目的ではなく、規則正しい生活リズムで過ごさせて勉強に取り組む為でもあります。選手には日頃から、「試合の前日だけ素振りや何百本と振ってもヒットは打てない。毎日こつこつと積み重ね、継続することが力になる。野球も勉強も同じだ。」と指導しています。冬季トレーニングでは会議室を借りて、学習時間も取り入れて得意科目を教え合う取り組みも行っています。

その他、何か聞きたいことなどございましたら、鶴友クラブHPの掲示板などでお気軽にお尋ねください。